

「内水面漁場環境モニタリング調査」始まる

水産研究所は、平成 27 年度から「内水面漁場環境モニタリング調査」を開始した。

この調査は、アユ等の内水面の有用水産物に影響を及ぼす水温、pH、DO、透視度等の水質調査、水生昆虫や付着藻類（写真1）の現存量、さらに魚類相などの調査(写真2)を通じて、内水面環境の現状を明らかにしようとするもの。

平成 8 年から 17 年の 10 年間、吉井川水系で国からの調査委託を受け「漁獲対象生物にとって良好な漁場環境」の維持、達成を図る目的で同様な調査を実施したが、現在の漁場環境が 20 年前とどのように変化しているのかを比較し、有用水産動物の減少要因の解明に繋がればと思っている。

今年度は、吉井川水系の上流・中流・下流で調査（図1）しているが、旭川水系や高梁川水系でも同様の調査を行う予定にしている。調査を通じて川が豊かであった時代の漁場環境に近づけるため、改善策の提案ができるよう取り組んでいきたい。

（内水面研究室 杉野）



写真1 水生昆虫（上）と付着藻類(下)



写真2 調査風景



図1 調査位置図